

日本学術振興会日中韓フォーサイト事業
事後評価（平成27（2015）年度採択課題）結果

日本側拠点機関名：新潟大学（医歯学系・客員教授・小松 雅明）

研究交流課題名： オートファジー、代謝と神経変性疾患

評価結果（総合的評価）	
☐	A 想定以上の成果をあげており、当初の目標は達成された。
☐	B 想定どおりの成果をあげており、当初の目標は達成された。
☐	C ある程度成果があがり、当初の目標もある程度達成された。
☐	D 成果が十分にあるとは言えず、当初の目標はほとんど達成されなかった。
所見	
本課題では、オートファジー基盤的メカニズムを理解し、神経変性疾患などのヒト疾患病態における役割を解明することを目的として、我が国と中国・韓国の研究機関との連携による国際共同研究が推進された。共同研究やセミナー・シンポジウムなどを通じた国際交流の結果、国際共著論文が発表されるなど、学術的価値の高い研究成果が得られた。 一方で、本事業は元々あった日韓の研究者同士の共同研究を基盤として中国のチームを加えて3カ国の共同拠点を目指すものであったが、中国との連携が弱く参加者も少ない。日本・中国・韓国それぞれでセミナーなどが開催されており、学術面では高い成果が得られているものの、特に中国側拠点との共著論文がないことには、3カ国の交流による成果という面において、やや物足りなさを感じる。 若手研究者育成の面では、セミナーや研究会に多くの若手研究者が参加しており、本事業の拠点機関を中心にオートファジー研究のネットワークが構築されたと考えられる。一方で、3カ国の参加規模に偏りがあり、また、若手研究者育成に対する貢献の具体性が必ずしも明白ではない。 本事業の成果として、肝細胞がんの増殖や抗がん剤耐性に関わる知見や、オートファジー抑制によるケトン体産生低下などの、細胞機能や疾患に関わるオートファジーの新たな機能が発見され、それを基盤として、新たな文部科学省新学術領域研究が開始されている。今後の研究の発展によって社会に還元できる成果が生まれることを期待する。	